

医療経営士からの実践報告！

病院改善ケーススタディー

地域医療連携センターの強化で 入院依頼を増加し入院患者獲得を

医療法人恒昭会藍野病院地域医療連携センター長／**梅本 豊**さん
医療経営士3級

医療法人恒昭会藍野病院で地域医療連携センター長を務める梅本豊氏は、病院の生存戦略として入院依頼の増加と入院患者獲得に取り組んだ。2024年度の第7回「医療経営に関する研究助成」における懸賞論文「日本医療経営実践賞」の優秀賞を受賞した梅本氏による記念講演より紹介する。

病院が淘汰される時代 地域医療連携センターの役割

当院は大阪府北部茨城市と高槻市の市境に位置しており、一般病床356床、精神病床552床の計908床を有しています。新規入院患者の割合は外来患者24%、紹介患者76%で、入院依頼割合は病病連携が約7割、そのほとんどが急性期病院で占められており、当院は、急性期病院の後方支援病院に位置づけられます。

地域医療構想による病床削減や平均在院日数短縮による医療費削減が推進され、今後、病院が淘汰されていくことが予測されるなか、当院が競争を生き残っていくためには入院患者を獲得していかなければなりません。

しかし、当院の主な入院経路の一つである外来患者の新入院患者数は、新型コロナウイルスの影響で月平均84件から52件と大きく減少。さらに、2024年4月から働き方改革の影響で土曜日の外来診療が休診となったため、今後、

外来からの急激な入院患者の増加は見込めません。

こうした状況下で当院が存続していくためには、紹介患者の入院依頼の増加を図りながら入院患者獲得につなげていかななくてはなりません。

そのために、地域医療連携センターは何をすべきか。まず、入院依頼の増加や集患に向けては、地域（外部）への働きかけが必要と考え、業務のデータベース化と渉外戦略の構築を行いました。次に、入院患者獲得においては院内（内部）へのアプローチが不可欠であることから、入院決定率向上を目的とした入院受入判定会議および病床管理会議を設置しました。その具体的な内容と結果について報告します。

適切なアプローチで 具体的成果につなげた軌跡

地域医療連携センターには、地域の診療所・病院・施設等から入院依頼を含めた多くの声が寄せられます。その情報をデータベース